

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和3年2月4日(2021.2.4)

【公開番号】特開2019-17706(P2019-17706A)

【公開日】平成31年2月7日(2019.2.7)

【年通号数】公開・登録公報2019-005

【出願番号】特願2017-138598(P2017-138598)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

A 6 3 F 7/02 3 3 3 Z

【手続補正書】

【提出日】令和2年12月16日(2020.12.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技媒体の入賞を検出する入賞検出手段と、

遊技媒体の排出を検出する排出検出手段と、

遊技機に関する軽度の異常または重度の異常を検出する異常検出手段と、

前記入賞検出手段及び前記排出検出手段の検出に基づいて所定の演算を行って更新されるカウンタと、

を備え、

前記異常検出手段が検出した異常が軽度の異常の場合には、前記所定の演算を行って前記カウンタが更新されるが、前記異常検出手段が検出した異常が重度の異常の場合には、前記入賞検出手段及び前記排出検出手段の検出はされるものの前記所定の演算を行うことがなく前記カウンタが更新されない

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

遊技機は、遊技者の操作によって左側から上部へ遊技媒体が打込まれることにより遊技が行われる遊技領域と、遊技領域内に所定のゲージ配列で植設されている複数の障害釘と、遊技領域内において遊技媒体を受入可能とされていると共に遊技媒体の受入れに応じて特典を付与する複数の受入口(一般入賞口、始動口、可変入賞口(可変始動口、大入賞口、役物入賞口)、V入賞口、等)と、を備えている。そして、遊技媒体が受入口に受入れられると、特典(遊技媒体の払出し、遊技者が有利となる有利遊技状態の発生、等)が付与されるため、遊技者に対して遊技媒体が受入口へ受入られるように、遊技媒体の打込操作を楽しませることができる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

この種の遊技機では、遊技領域内に打込まれた遊技媒体の数（全球数）と、受入口（入賞口）に遊技媒体が受入れられることで払出された遊技媒体の数（セーフ球の数）と、から払出率（出玉率）を算出して、遊技機の状態を管理するようにしている。遊技領域内に打込まれた遊技媒体の数のカウントは、遊技領域を備えている遊技盤の下端に、入賞口に受入れられて遊技領域外へ排出された遊技媒体と、遊技領域内に打込まれたものの入賞口に受入れられずにアウト口から遊技領域外へ排出された遊技媒体とを、纏めて遊技機が設置されている遊技ホールの島設備側へ排出する排出部に、遊技媒体を検知するアウト検知センサを設けてカウントするようにしている（例えば、特許文献1）。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

【特許文献1】特開2017-80047号公報

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

しかしながら、特許文献1のような技術では、入賞口に受入れられた遊技媒体と、アウト口に受入れられた遊技媒体とを、検知するとカウントを行うため遊技機に異常が発生している状況も含めていカウントすることとなり、設計上意図しない結果が算出される恐れがあった。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

そこで、本発明は、上記の実情に鑑み、センサを設けてカウントされる値と設計値との乖離を抑制することを課題とするものである。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

上記課題を解決するために、本願発明は、

上述の目的を達成するための有効な解決手段を以下に示す。なお、必要に応じてその作用等の説明を行う。また、理解の容易のため、発明の実施の形態において対応する構成等についても適宜示すが、何ら限定されるものではない。

上記した目的を達成するために、請求項1に係る発明においては、

所定の始動条件の成立に基づいて抽選を行い、該抽選の結果に基づいて図柄の変動表示を行い、該図柄の変動表示の結果として当り図柄が停止表示された場合に所定の当り遊技

を実行する遊技機において、

所定の設定操作部に対する操作に基づいて、遊技に関する設定情報を複数のうちのいずれかに決定可能な設定決定手段と、

前記図柄の変動表示に係る変動時間を決定する変動時間決定手段と、

前記図柄の変動表示結果として所定の小当たり図柄が停止表示されることで、所定の可変入賞装置を開状態にする小当たり遊技を実行する小当たり遊技実行手段と、

前記小当たり遊技にて前記可変入賞装置の内部に入球した遊技球が所定領域を通過することで、当該小当たり遊技よりも遊技者に有利な大当たり遊技を実行する大当たり遊技実行手段と、

前記大当たり遊技の終了後、通常の遊技状態よりも変動時間が相対的に短い特定遊技状態に制御する遊技状態制御手段と、

を備え、

前記設定情報のうちの第1の設定情報には、前記小当たり図柄が停止表示される確率として第1の確率が対応付けられ、前記設定情報のうちの第2の設定情報には、前記小当たり図柄が停止表示される確率として前記第1の確率よりも高い第2の確率が対応付けられており、

前記設定決定手段により前記第2の設定情報が決定された場合には、前記設定決定手段により前記第1の設定情報が決定された場合よりも、前記変動時間決定手段により決定される前記特定遊技状態での変動時間の平均時間が長くなるようにした

ことを特徴とする。

また、上記発明とは別に以下の手段を採用してもよい。

手段1：遊技媒体の入賞を検出する入賞検出手段と、

遊技媒体の排出を検出する排出検出手段と、

遊技機に関する軽度の異常または重度の異常を検出する異常検出手段と、

前記入賞検出手段及び前記排出検出手段の検出に基づいて所定の演算を行って更新されるカウンタと、

を備え、

前記異常検出手段が検出した異常が軽度の異常の場合には、前記所定の演算を行って前記カウンタが更新されるが、前記異常検出手段が検出した異常が重度の異常の場合には、前記入賞検出手段及び前記排出検出手段の検出はされるものの前記所定の演算を行うことなく前記カウンタが更新されない

ことを特徴とする遊技機。

#### 【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

本発明によれば、センサを設けてカウントされる値と設計値との乖離を抑制することができる。